

4

褥瘡発生率

指標の意義

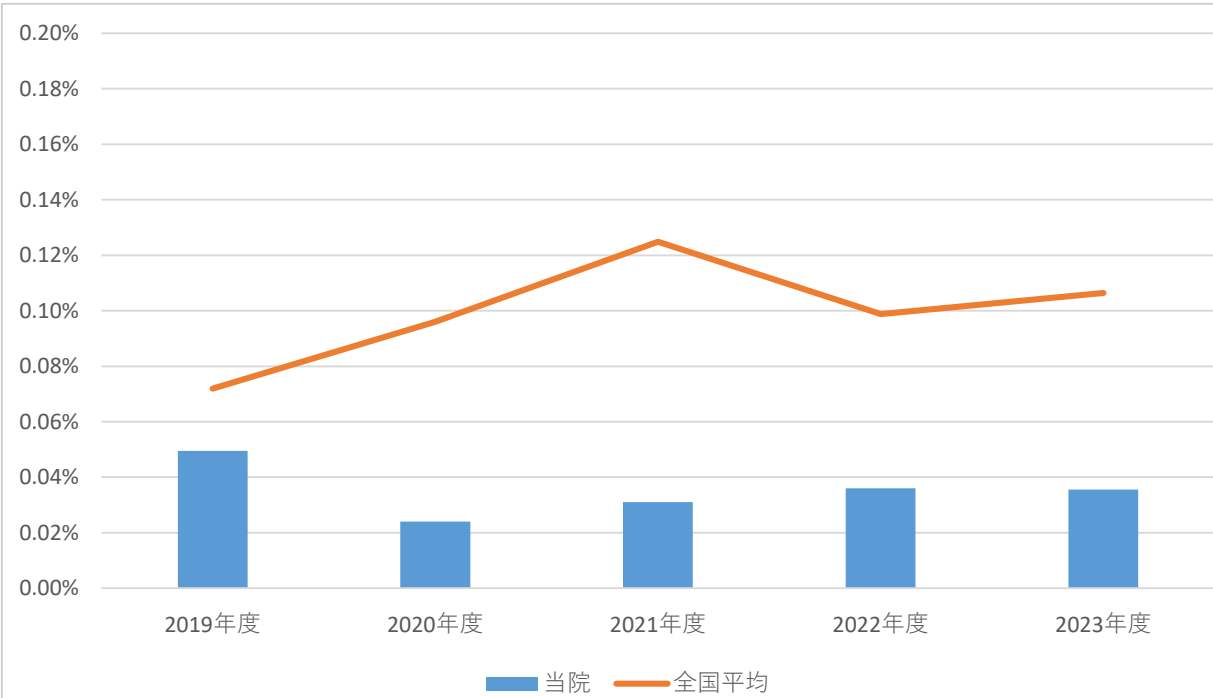
褥瘡は、看護ケアの質評価の重要な指標の1つとなっています。褥瘡は患者のQOL の低下をきたすとともに、感染を引き起こすなど治癒が長期に及ぶことによって、結果的に在院日数の長期化や医療費の増大にもつながります。そのため、褥瘡予防対策は、提供する医療の重要な項目の1つにとらえられ、1998 年からは診療報酬にも反映されています。

定義

分母：入院延べ患者数
分子：調査期間における分母対象患者のうち、d2以上の褥瘡の院内新規発生患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	94,903	87,438	90,225	91,506	92,844
分子値	47	21	28	33	33
数値	0.050%	0.024%	0.031%	0.036%	0.036%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。
褥瘡対策を行うことは入院基本料を算定する基準のひとつです。
褥瘡発生率は、看護ケアの質評価の重要な指標の1つとなっています。
褥瘡は患者のQOL の低下をきたすとともに、感染を引き起こすなど治癒が長期に及ぶことによって、結果的に在院日数の長期化や医療費の増大にもつながります。
目の前の患者が褥瘡発生する確率を見ているものであり、日々のケアの質に関わるものです。
全国平均と比較して低い発生率を保つことができます。

指標の意義

精神保健福祉法において、身体的拘束は、制限の程度が強く、また、二次的な身体的障害を生ぜしめる可能性もあるため、代替方法が見出されるまでの間のやむを得ない処置として行われる行動の制限であり、できる限り早期に他の方法に切り替えるよう努めなければならないものとされています。

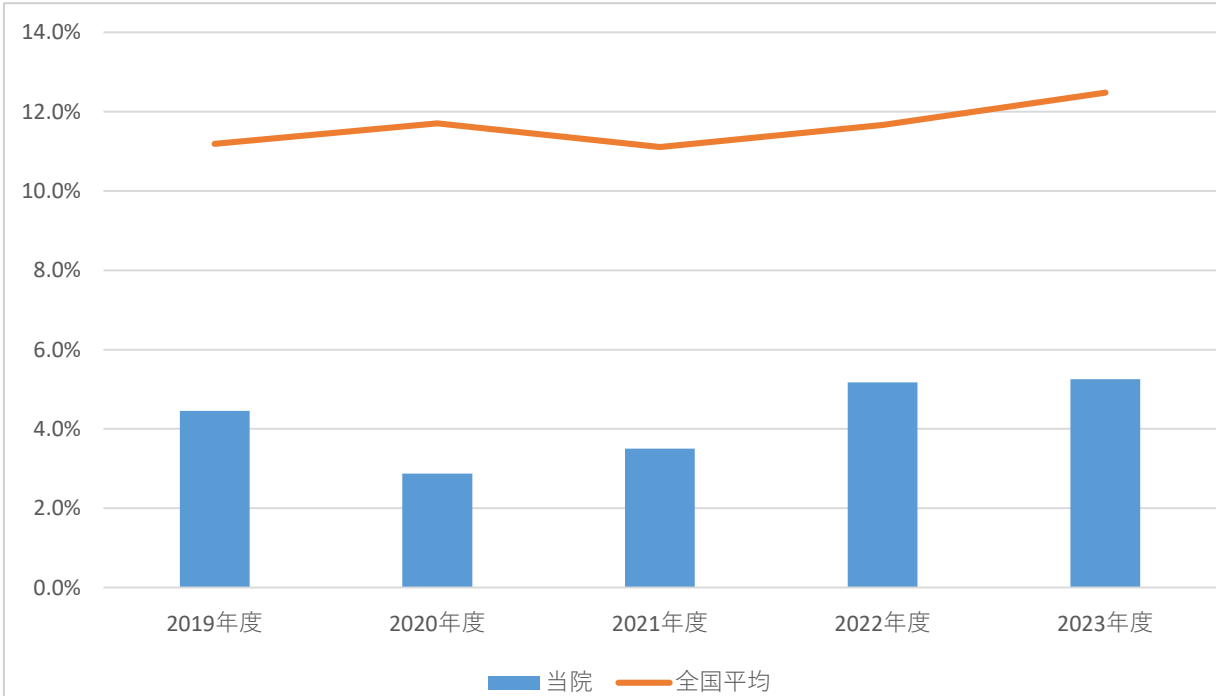
施設や医療機関などで、患者を、「治療の妨げになる行動がある」、あるいは「事故の危険性がある」という理由で、安易にひもや抑制帯、ミトンなどの道具を使用して、患者をベッドや車椅子に縛ったりする身体拘束、身体抑制は慎むべきものです。

定義

分母：18歳以上の入院患者延べ数
分子：（物理的）身体抑制を実施した患者延べ数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	101,956	95,053	98,409	101,704	100,559
分子値	4540	2729	3447	5263	5285
数値	4.45%	2.87%	3.50%	5.17%	5.26%



指標の説明

より低い値が望ましいとされます。

当院は身体的拘束最小化の取組みを2018年から開始しております。患者さんに寄り添うことを理念として看護を行っています。

抑制の必要性を慎重に判断するための院内研修を定期的に行っております。